

埋文

とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2022.6.30

VOL.

159



小竹貝塚出土品（富山市呉羽）
《小玉垂飾》

巻貝（マガキガイ）の貝殻を加工して作られた垂飾です。大きさは十数ミリ程度で、現代のビーズのように使われたと考えられます。約6,000年前の縄文時代前期は世界的な気候温暖化で、海面が現在より4～5メートル高かったと言われています。マガキガイは熱帯～亜熱帯に分布することから、当時の小竹貝塚周辺も温暖な気候であったことが推測されます。

とっておき埋文講座 ● 企画展「見て、知って！とやまヒストリー2022」

● 6年目を迎えた「MAIBUN 小竹貝塚研究プロジェクト」

埋文あらかると ● 刊行！富山県出土の重要考古資料第14集 とやまの古代祭祀遺跡等出土品

Center Flash ● チャレンジ とやまヒストリー2022開催！

● 人のうごき

古写真発掘！ ● 柳田古墓 朝日町柳田

富山県埋蔵文化財センター

企画展「見て、知って! とやまヒストリー2022」

— 富山県の旧石器時代から近現代までの歴史を発掘出土品から学ぶ —

とっておき埋文講座①

はじめに

今回の企画展では、歴史を学ぶ小学生向けに、歴史への関心を深めてもらえるよう、数多くの出土品の中から時代ごとに特徴的なものを選定して展示しました。

また、歴史や考古学に詳しい人にも興味をもってもらえるように、「すごいぞ! とやまの遺跡」と題した解説パネルを設け、特徴的な富山の遺跡を紹介しています。

それでは、各時代の見どころについて簡単に紹介します。

旧石器時代

直坂 I・II 遺跡(富山市、国指定史跡)、立美遺跡(南砺市)の石器を展示しました。直坂 I 遺跡の接合資料(県指定有形文化財)は石の割れ方から当時の石器の作り方が分かる重要な出土品で、東日本の石刃技法で作られています。一方で直坂 II 遺跡からは、西日本の瀬戸内技法でつくられた石器が見つかります。富山県は東と西の文化の境目とよく言われますが、旧石器時代から文化の東西交流があったようです。

また、立美遺跡から見つかった旧石器は9割が黒曜石製で、その黒曜石は遺跡から約540kmも離れた青森県深浦産であることがわかっています。旧石器人の交易の広さをうかがい知ること

ができる貴重な出土品です。



縄文時代

縄文土器は特に文様が華やかで、教科書にもよく掲載されている中期の土器を中心に展示しました。

また、長山遺跡(富山市)や早月上野遺跡(魚津市)などから出土した土偶を展示しました。長山遺跡の土偶には、「おさげ髪」を表現したものがあり、当時の人々の服装や髪形などを知る手がかりにもなります。

さらに、浦山寺蔵遺跡(黒部市)の磨製石斧やその未成品(製作途中のもの)を展示しました。並べてみると、どのような工程で石斧を作っていたのかがよくわかります。



弥生時代

惣領浦之前遺跡(氷見市)の臼と

上久津呂中屋遺跡(氷見市)の堅杵、江上 A 遺跡(上市町)の鋤や鍬、えぶり、大野江淵遺跡(氷見市)の高床倉庫の梯子など、稲作に関するものを数多く展示しました。

また、愛宕遺跡(射水市)の皮袋形の土器を展示しました。大陸の文化をルーツにもつもので、全国的に希少です。

さらに、惣領浦之前遺跡の木製の盾や剣、甲(よろい)を展示しました。祭りの道具として使われたようですが、きっと戦いを彷彿とさせる勇ましい祭りだったのでしょう。

そして、上久津呂中屋遺跡から出土した井戸側を初展示しました。水を得るのに井戸を作るようになったのも弥生時代からです。



古墳時代

古墳時代には、各地の豪族が力の象徴として大きな墓(古墳)を造りました。今回は板屋谷内 B・C 古墳群(高岡市)から出土した鉄刀や銅鏡、玉類(アクセサリー)を展示しました。

また、弥生土器の流れをくむ土師器と、大陸からの渡来人によって伝えら



れた須恵器すえきを展示しました。土師器は熱に強いので煮炊きに、須恵器は水漏れしにくいので酒など液体の貯蔵にと、用途によって使い分けていました。



古代

当時の農民には様々な税が課せられ、重い負担に苦しんでいました。北高木遺跡(射水市)から出土した、当時の税の1つである「公出挙」を示す木簡を展示しました。

また、じょうべのま遺跡(入善町、国指定史跡)や高瀬遺跡(南砺市、国指定史跡)は荘園の管理所(荘家)の遺跡です。出土した木簡のレプリカや、高瀬遺跡を再現したジオラマを展示しています。



中世

現在放映中のNHKの大河ドラマにちなんで、「鎌倉殿の13人」と同時期のものや、武士に関係の深いものを選んで展示しました。

井口本江遺跡(高岡市)の折烏帽子は、当時の成人男性の日常的なかぶり物です。

友杉遺跡(富山市)の檜扇は日用品ではなく、田楽など祭祀儀礼に使われたものようです。扇の出土は鎌倉や平泉、大宰府など政治や文化の中心地が多く、富山で見つかるのは希少です。

梅原胡摩堂遺跡(南砺市)の銭貨は紐で繋げて保管していたようです。平清盛は中国との貿易をさかに行い、中国の銅銭も大量に輸入し、全国で流通するようになりました。また白磁や青磁など高級な焼き物も盛んに輸入され、権力者や富裕層に好まれました。

道場I遺跡(富山市)の五輪塔と板碑はお墓に建てられたものです。梵字が彫り込まれたものもあり、当時の宗教観を知ることができます。



近世

近世の展示の目玉として、越中と飛騨との交流について紹介しています。越中からは鱒などの魚、飛騨からは木材などを運んでいましたが、その道筋を描いた「水戸田より神通川箆の渡しに至る絵図」を県立図書館よりお借りしました。また、この道を通して交易することを許された人に与えられた「西猪谷御関所通札(江尻家文書)」の写真を県公文書館からご提供いただきました。



「水戸田より神通川箆の渡しに至る絵図」(富山県立図書館蔵)

近現代

旧県会議事堂跡の煉瓦やスレート板、戦時統制下の陶磁器、戦中の訓練時に使用された実砲や、軍用行李などを展



示しています。これらの展示品は長い歴史の中では最近のものですが、未来へ伝えるべき大切な文化財です。



特設コーナー

「実はすごいぞ! とやまの遺跡」と題して、とやまが誇る日本一の遺跡を紹介しています。普段使っている教科書に載っていることは少ないですが、どれも日本の歴史学会に大きな影響を与えた遺跡です。

入口に設置したクイズシートを使って、とやまの遺跡がどんな日本一なのかを当ててもらおうクイズ形式にしました。そして、「すごい」と思った遺跡を投票してもらおうなど、楽しみながら学べるように工夫しました。

終わりに

来館された方に、富山県にある数多くの遺跡や貴重な出土品の魅力を感じていただくとともに、「ふるさと」とやまへの誇りと愛着をもっていただけるような展示にしました。ぜひ当センターへお越しください。ご来場をお待ちしています。

(善徳 甚樹)

6年目を迎えた「MAIBUN 小竹貝塚研究プロジェクト」

とっておき埋文講座②

はじめに

小竹貝塚は、富山市呉羽地区に所在する縄文時代前期の貝塚遺跡である。昭和20年代にその存在が確認されて以来の主な調査履歴は下表に示す通りであり、昭和33年(1958年)以降、複数回の小規模な調査や資料採集が行われた後、北陸新幹線建設を大きな契機として平成19年(2007年)から、最も広い範囲を発掘調査することとなった。



平成21・22年発掘調査区全景

昭和30年代から、貴重な貝塚遺跡として認識されていたが、いよいよ平成21・22年(2009・2010年)に実施された発掘調査で大きな発見をすることとなる。このときの調査面積は、約1,200㎡、中でも世間の耳目を集めたのは、縄文時代前期(約6,000年前)の埋葬人骨が91体も確認されたことである。これは、同時期としては、国内最多の数であり、貝塚の規模としては日本海側最大級である。

人骨がとりあげられがちであるが、小竹貝塚からは、縄文土器はもちろん、埋葬された犬骨や多数の骨角製品、動物骨、魚骨、木製品、植物製品、石製品など多彩な出土品がある。未成品ながらもヒスイの玉は、現在のところ日本最古のものである。

発掘調査から5年後、報告書が完成した後、平成26年(2014年)3月に人骨を除く出土品の全てが富山県埋蔵文化財センターに収蔵(人骨は平成27年に収蔵)され、平成23年(2011年)に交付金を受けて改修した小展示室を小竹貝塚の常設展示室とし、12号人骨と28号人骨の全身骨格や土器・石器・



小竹貝塚常設展示室の様子

骨角製品などが通年で見学できるようになった。

予算ゼロでのプロジェクト始動

前述のとおり、小竹貝塚からの出土品は土器・石器・木製品・植物遺存体はもとより、何より約6,000年前としては日本最多の人骨や多数の動物骨・魚骨があり、富山県が誇る第一級の考古資料であるとともに、多くの考古学の分野以外の研究材料としても極めて貴重なものと言える。そうした貴重な資料を眠らせることなく、継続的に小竹貝塚の存在や資料としての重要性、また、魅力の情報発信をするために、平成29年度(2017年度)から予算ゼロで「MAIBUN小竹貝塚研究プロジェクト」を開始し、細々とではあるが、5年間このプロジェクトを継続してきた。6年目を迎えた今、これまでの成果を振り返ってみることとする。

① 研究者との連携と情報発信

こうした人骨や動物遺存体を研究対象とする科学者は多く、小竹貝塚の人骨や出土品を研究材料として公開し、その研究成果をご提供いただき、平易に解説する形で当センターからも情報発信させていただいている。

この外部の研究者との協力による大きな成果の一つが昨年(2021年)9月18日に国際学術誌「Science Advances(サイエンス アドバンス)」のオン

年代	調査内容
昭和20年代 (1945-55年)	海老江久良氏が踏査で貝塚の存在を確認
昭和33年 (1958年)	・高瀬保氏が北陸電力の高圧高架線鉄塔工事中の出土遺物について聞き取り ・高瀬氏が猪島吉安氏らの協力を得て、呉羽中学校生徒と共に貝塚確認の試掘調査を行う ・高瀬氏が付近の民家から井戸掘削時の様子を聴取
昭和39年 (1964年)	岡崎卯一氏が富山大学生・富山北部高校生と試掘調査を行う(出土遺物のC14年代測定を実施)
昭和46年 (1971年)	・富山県教育委員会が発掘調査を実施(貝層と人骨1体を確認) ・吉久登氏、本江洋氏が新鍛冶川の川底で資料採取
昭和47年 (1972年)	富山市教育委員会が富山大学の協力を得て、貝塚の範囲確認調査を実施
平成19年 (2007年)	富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所(以下、「埋蔵文化財調査事務所」)が北陸新幹線建設工事に先立つ試掘調査を実施
平成20年 (2008年)	富山市教育委員会が新鍛冶川の護岸工事に先立つ発掘調査を実施(人骨・貝層・竪穴住居を確認)
平成21年 (2009年)	埋蔵文化財調査事務所が北陸新幹線建設工事に先立つ発掘調査を実施[A地区](竪穴住居を確認)
平成22年 (2010年)	埋蔵文化財調査事務所が北陸新幹線建設工事に先立つ発掘調査を実施[B・C地区](貝層から91体の人骨が出土)
平成25年 (2013年)	富山市教育委員会が道水路付け替え工事に先立つ発掘調査を実施

小竹貝塚の主な調査履歴

ライン版に金沢大学の覚張隆史助教が主筆となられた「パレオゲノミクスが明らかにした日本人集団の三重構造」というタイトルの論文が掲載されたことである。この論文において小竹貝塚出土人骨が縄文人のゲノム解析に大いにお役に立てたのである。



ゲノム解析に用いられた
小竹貝塚出土の人骨

② 埋葬犬とオダケンの誕生

また、「研究」とついているが、間口は実に広い。当時の「小竹ムラ」に暮らした人々の様子を想像した「物語」を作るのもよしとしており、実際に「オダケン日記」という、当時の小竹ムラに生きた犬を主人公とした「オダケン日記」が生まれ、当センターの公式ツイッターで公開された。残念ながらこの「オダケン日記」は12話目を最後に続きが描かれていない。何しろ作者がWordで描いているものだから、1作を描き上げるのにかなりの時間が要るとのことである。独特の画風にファンも多数いるようなので、続きが待たれるところである。



埋葬犬13号の復元骨格と参考模型

オダケンのモデルとなった埋葬犬13号の骨について、県博物館協会から研究補助を受け、奈良文化財研究所の指導の下、展示できるように骨格復元をし、参考模型を製作した。



オダケン日記 その11
「オダケン…面目躍如の日」

③ ニュース紙の発行

こうした研究成果を紹介するニュース紙を製作発行することとし、平成31年(2019年)1月に第1号を発行して以来、令和4年(2022年)3月で第14号を数える。これらは、当センターのHPでも公開しているので、ぜひお読みいただきたい。

内容は、外部の研究者による研究成果の紹介から、職員が研究し実践した出土品の製作工程の考察など、さまざまである。

No.	タイトル(内容)
Vol. 1	(ニホンジカの利用)
Vol. 2	小竹人のお魚事情 - その1 -
Vol. 3	人とイヌの関係 - 骨の分析から -
Vol. 4	小竹貝塚で見つかった他地域の土器
Vol. 5	小竹人のお魚事情 - その2 (漁場) -
Vol. 6	小竹人のお魚事情 - その3 (漁の方法) -
Vol. 7	縄物復元 - その1 -
Vol. 8	縄物復元 - その2 -
Vol. 9	縄物復元 - その3 -
Vol. 10	縄物復元 - その4 -
Vol. 11	縄物復元 - その5 -
Vol. 12	縄文犬の復元
Vol. 13	クルミの垂飾 - その1 -
Vol. 14	クルミの垂飾 - その2 -

これまでのニュース紙のタイトル



これまでに発行したニュース紙

④ 小竹貝塚紹介パンフレットの改訂

さらに、文化庁の地域の特色ある埋蔵文化財活用事業の助成を受けて、ゲノム解析等の研究成果も盛り込み、平成26年(2014年)に作成した小竹貝塚解説パンフレットの改訂版を作成した。今回の改訂版では、日英両表記としたが、翻訳ソフトで英語化した上で県国際課国際交流係の協力を得るなどし、こちらも翻訳に係る予算はゼロで作成した。今後はもっとたくさんの海外の方々に富山の「ODAKE」を知ってもらいたいと考えている。



改訂した小竹貝塚のパンフレット

今後の小竹貝塚研究

当センターの役割の一つは、小竹貝塚の出土品が今後ますます研究材料として活用されるよう情報発信に努め、引き続き様々な分野と連携協力することである。そして、そこから見えてくる6,000年前の「小竹ムラ」に生きた人々の構成や関係性、環境などを追究し、より鮮明な当時のムラの様子を国内外の多くの方々に伝えて行くことを目標としたい。(境 洋子)

※二次元バーコードから、それぞれの発行物を見ることができます。

埋文 あらかると

刊行！ 富山県出土の重要考古資料第14集 とやまの古代祭祀遺跡等出土品

当センターは、平成19年度から、富山県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として「富山県出土の重要考古資料」を13冊刊行してきました。今回は第14集として、古代の祭祀遺跡等の出土品を紹介します。

現在、県内で発掘調査が行われ、古代の祭祀遺物・仏教関連遺物等を出土した遺跡は約100遺跡をこえています。このうち祭りやまじない、信仰など古代の人々の風習を表す祭祀遺物や仏教に関連する特殊品など、重要度の高い9遺跡165点の出土品を選定しています。

特に、射水市の北高木遺跡では、『延喜式』に定められた6月晦日大祓に使われる祭祀具に対応した人面墨書土器や人形などの多様な木製祭祀具が出土

しています。このことから、遺跡で行われた祭祀は大祓と考えられ、遺跡は越中国府の祭祀場であったと想定されています。

本書が富山県の貴重な文化財に興味を持つきっかけとなり、より関心を深めていただければ幸いです。



下佐野遺跡出土品



南太閤山Ⅰ遺跡出土品



北高木遺跡出土品

夏の催しガイド 2022

Start up

チャレンジ とやまヒストリー 2022 開催!

埋文では、考古学に触れられるプログラムをたくさん用意しています。
夏休みの課題にもぴったりです。ぜひ埋文に訪れてみませんか。

① 親子で挑戦 ワクワク体験教室

親子で楽しみながら古代のものづくりにチャレンジします。

対象：小学4～6年生の児童とその保護者

<メニュー>

- ・ 刀鍛冶の体験をしよう……………7月23日(土)、7月26日(火)、
7月28日(木)、7月30日(土)
 - ・ 古代の鏡の鑄造を体験しよう…8月2日(火)、8月4日(木)、
8月6日(土)
 - ・ 古代のアジロ編み・漆塗りを体験しよう……………8月9日(火)
 - ・ 染物を体験しよう……………8月11日(木)、8月13日(土)
 - ・ クルミの垂飾づくりを体験しよう……………8月16日(火)、8月18日(木)
 - ・ 大型まが玉づくりを体験しよう……………8月20日(土)
- (全ての日程で、午前・午後の2回ずつ開催します。事前申込が必要です。)



② こども考古学講座

7月31日(日)、8月7日(日)、8月21日(日)

対象：小学4～6年生

<内容(予定)>

- ・ 考古学って何? ・ 発掘調査ってどんなことをするの?
 - ・ 県内には、どんな遺跡があるの? ・ 本物の土器をさわろう!
 - ・ 普段は入れない収蔵庫を探検!
- (事前申込が必要です)



③ 夏休み考古体験コーナーまいぶん研究室 7月16日(土)～8月28日(日)

・ 校下の遺跡や出土品を調べたり、クイズコーナーなど楽しく考古体験ができる特設コーナーを開設します。

(事前申込は不要です)

人のうごき

4月1日付での異動をお知らせします。

■異動 副主幹

朝田 亜紀子

■転出 副主幹
主任

篠崎 義博
松井 広信

中部厚生センターへ
生涯学習・文化財室へ

■転入 主任専門員
文化財保護主事

竹中 亮
道言 瑞希

新川農林振興センターから
生涯学習・文化財室から

古写真発掘!—《13》



やなぎだ こぼ 柳田古墓

昭和49年（1974年）撮影

朝日町柳田

柳田古墓は、標高約50mの扇状地上にあります。昭和47年（1972年）から5か年計画で実施されたほ場整備事業に先立ち、昭和49年（1974年）に発掘調査が行われました。この際の調査では、柳田古墓の他に縄文時代前期の集落跡（柳田遺跡）も見つかったことから、工事計画を変更し遺跡を保存することとなりました。

柳田古墓は、昭和23年（1948年）の町道改修の際に既に発見されていました。その時点では、古墳時代の竪穴石室とされていましたが、昭和49年の調査により、中世の墓であることがわかりました。

発掘調査の結果、古墳時代の竪穴石室のようにきちんと石を組んだ中央に棺を入れた穴が見つかりました（写真下）。13.5m×12.5mのほぼ正方形に近い周溝も確認されました（写真上）。昭和23年の工事で土取りされる前は高さ2m程度の「土まんじゅう」が存在したとのことで、かつては墳丘もあったと考えられています。柳田古墓も保存されることとなったため、遺構の全てを発掘することなく、埋め戻されました。

編集後記

新型コロナウイルスの収束が見通せない中ではありますが、感染対策を講じたうえで、来館学習や出前授業など、当センターの利用が少しずつ活発化してきました。夏休みに開催される「チャレンジとやまヒストリー2022」にも、ぜひ多くの方に参加して頂けたらと思います。ご来館をお待ちしています。（担当 善徳）

富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.159

令和4年6月30日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>

